

別紙 1

交通安全に関する市民アンケート調査の結果について

◎ 趣旨

交通安全に関する市民のニーズを把握し、課題の抽出や「（仮称）第12次宇都宮市交通安全計画」における効果的な事業を立案する参考とするため実施した標記アンケートの結果について取りまとめたもの

1 アンケートの趣旨

アンケート調査を実施することにより、交通安全に関する市民のニーズを把握し、課題の抽出や「(仮称)第12次宇都宮市交通安全計画」における効果的な事業を立案するための参考とするもの

2 アンケートの対象者

- (1) 抽出方法：住民基本台帳から18歳以上の市民2,000人を無作為抽出(外国人含む)
- (2) 調査方法：郵送(回答はインターネットも可)
- (3) 調査期間：令和7年6月20日～7月15日
- (4) 主な質問項目
 - ・自動車や自転車、歩行者等に係る交通安全について
(交通ルールの遵守状況、対策が必要な年代、事故防止に向けた有効な手法、自転車保険加入やヘルメットの着用状況等)
 - ・交通安全全般に関する取組について(市に力を入れてほしい取組、高齢者の事故減少に必要な取組、運転免許証の自主返納、交通安全に関する情報の有効な発信方法等)

3 アンケートの回答状況

有効回答数 667件(回答率33.4%)

調査結果

■ 回答者の属性について

①性別

男性	249
女性	386
その他	0
答えたくない	16
未回答	9

②年代

10歳代	4
20歳代	38
30歳代	91
40歳代	100
50歳代	129
60歳代	123
70歳代以上	164
未回答	11

③居住地区

石井	17	西	9
泉が丘	27	錦	10
今泉	17	西原	7
上河内	12	東	8
河内	42	平石	8
清原	26	富士見	35
国本	14	細谷・上戸祭	18
五代若松原	10	瑞穂野	11
桜	16	緑が丘	7
篠井	6	峰	11
城東	22	宮の原	14
昭和	20	御幸	13
城山	27	御幸ヶ原	15
姿川	38	明保	0
雀宮	55	築瀬	8
宝木	18	陽光	11
中央	12	要等	6
戸祭	13	陽南	16
富屋	1	横川	23
豊郷	23	未回答	14

④ 日常の移動で利用する主な移動手段について（複数可）

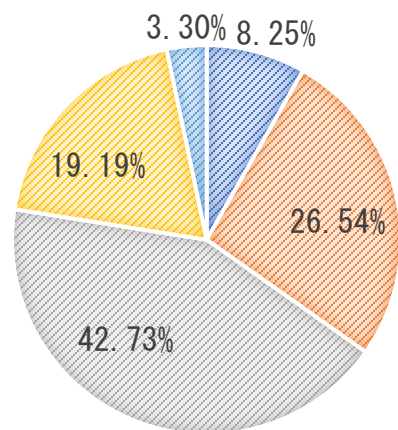
	徒歩	自転車	バイク	自動車	バス	電車	ライト ライナー	タク シー	地域内 交通	その他
10歳代	2	4	0	0	1	2	0	0	0	0
20歳代	19	10	3	29	6	7	1	1	0	0
30歳代	30	18	2	83	6	4	12	1	0	0
40歳代	29	22	3	91	15	8	4	2	0	1
50歳代	36	20	4	109	21	15	7	6	3	1
60歳代	51	29	3	103	15	12	3	2	1	0
70歳代以上	78	46	4	129	38	21	10	12	5	4
未回答	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0
合計	247	150	19	547	102	69	37	24	9	6

調査結果①（自動車などの交通安全について）

■ 自動車などの交通安全について

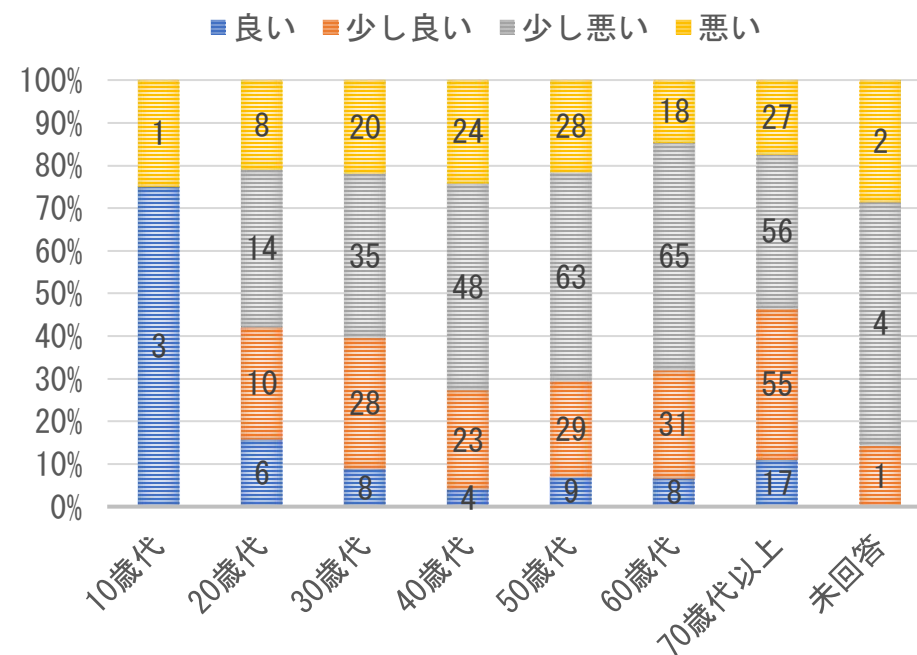
① 宇都宮市内の自動車やバイクなど（原付を含む）の運転者の交通ルールの遵守について、どのように感じますか。（一つ選択）

良い	55
少し良い	177
少し悪い	285
悪い	128
未回答	22



	良い	少し良い	少し悪い	悪い	未回答
10歳代	3	0	0	0	1
20歳代	6	10	14	8	8
30歳代	8	28	35	20	20
40歳代	4	23	48	24	24
50歳代	9	29	63	28	28
60歳代	8	31	65	18	18
70歳代以上	17	55	56	27	27
未回答	0	1	4	2	2

年齢層別内訳



■ 良い ■ 少し良い ■ 少し悪い ■ 悪い ■ 未回答

- ・ 自動車の運転者の交通ルールの遵守について、「良い」「少し良い」と感じる人は34.8%で前回調査(R1)より11.6ポイント増加している。
- ・ 自動車の運転者の交通ルールの遵守について、「少し悪い」「悪い」と感じる人は61.9%

調査結果①（自動車などの交通安全について）

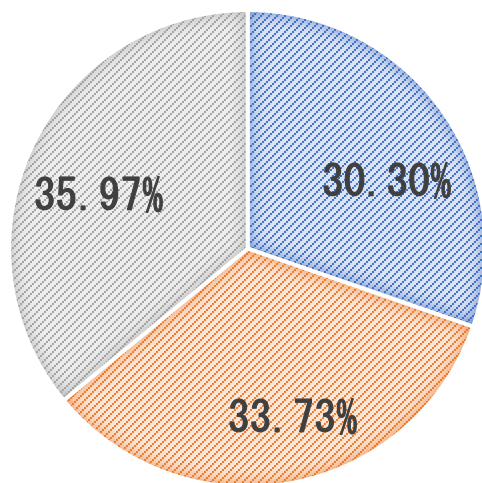
■ 自動車などの交通安全について

② 悪いと感じる運転者は、どのくらいの年代の方だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
若年（～29歳）	230	34.48%
中壮年（30～64歳）	256	38.38%
高齢者（65歳～）	273	40.93%

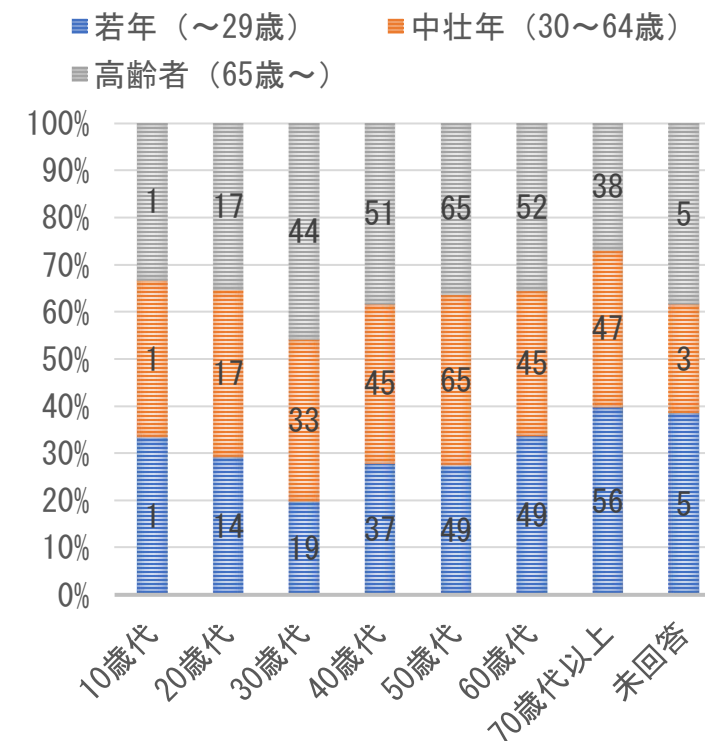
回答数 / 全体回答数

年齢層別内訳



■ 若年（～29歳） ■ 中壮年（30～64歳） ■ 高齢者（65歳～）

	若年 （～29歳）	中壮年 （30～64歳）	高齢者 （65歳～）
10歳代	1	1	1
20歳代	14	17	17
30歳代	19	33	44
40歳代	37	45	51
50歳代	49	65	65
60歳代	49	45	52
70歳代以上	56	47	38
未回答	5	3	5



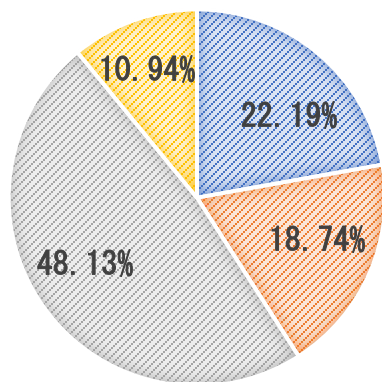
「悪い」と感じる自動車運転者の年代は、「高齢者」、「中壮年」、「若年層」の順だが、それぞれ3割台となっており、大きな差はない。

調査結果①（自動車などの交通安全について）

■ 自動車などの交通安全について

③ 自動車やバイクなど（原付を含む）の交通事故を減らすために、どの年代の運転者に対して交通安全対策が必要だと思いますか。（一つ選択）

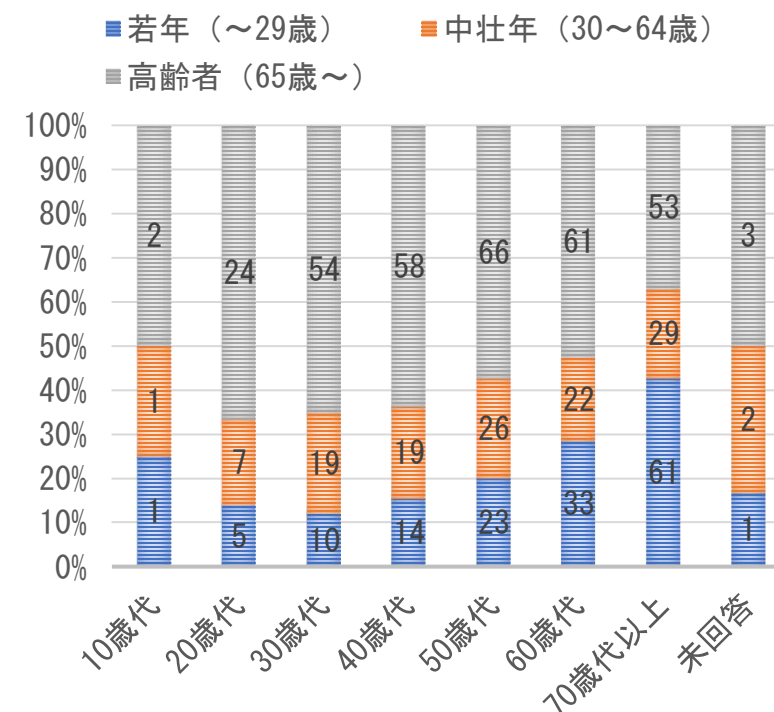
若年（～29歳）	148
中壮年（30～64歳）	125
高齢者（65歳～）	321
未回答	73



■ 若年（～29歳）
■ 中壮年（30～64歳）
■ 高齢者（65歳～）

	若年（～29歳）	中壮年（30～64歳）	高齢者（65歳～）
10歳代	1	1	2
20歳代	5	7	24
30歳代	10	19	54
40歳代	14	19	58
50歳代	23	26	66
60歳代	33	22	61
70歳代以上	61	29	53
未回答	1	2	3

年齢層別内訳



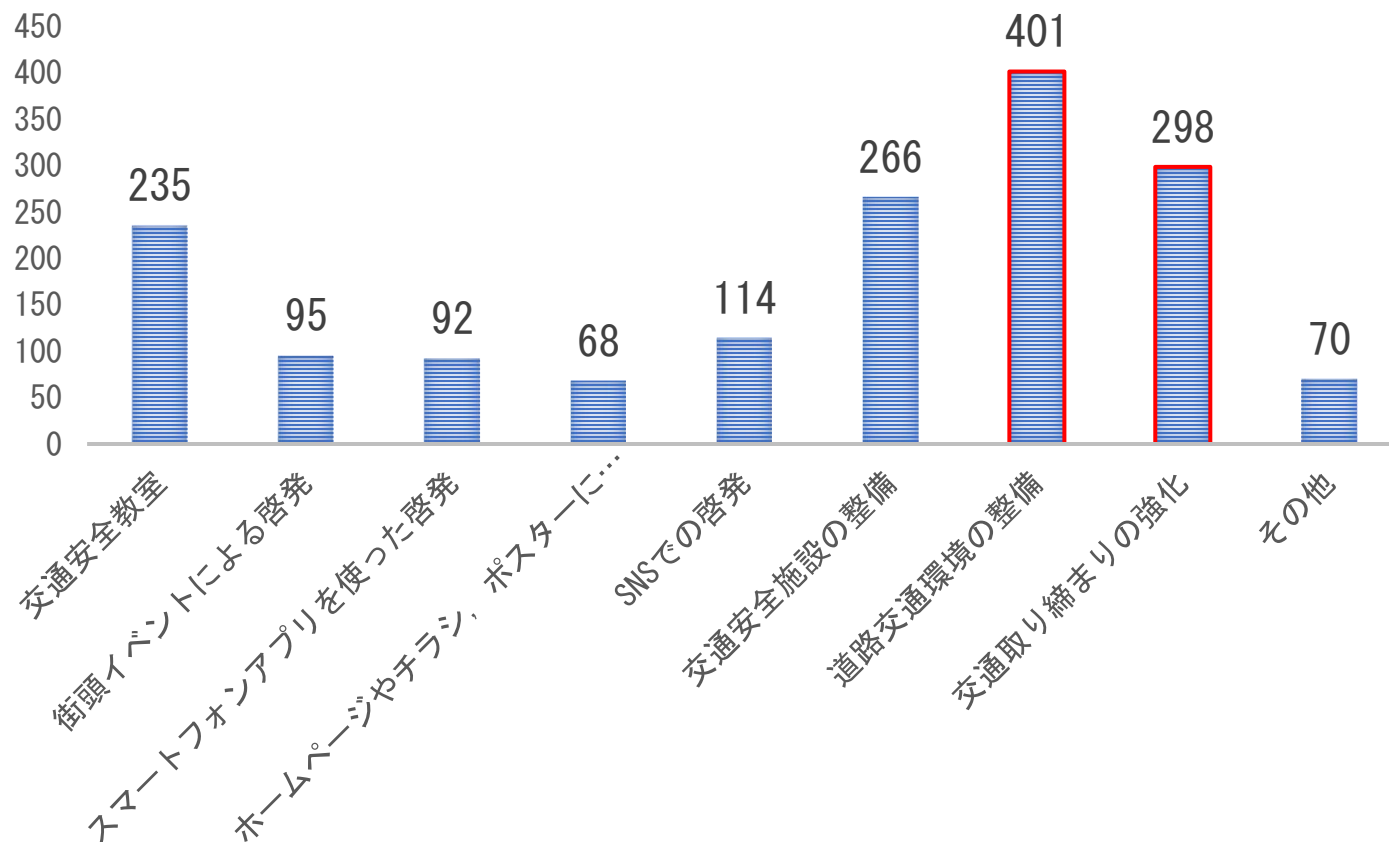
交通安全対策が必要と思われる自動車運転者の年代は、「高齢者」が48.1%と最も多く、次いで「若年層」が22.2%となっている。

調査結果①（自動車などの交通安全について）

■ 自動車などの交通安全について

④ 自動車の事故防止に向けた交通安全対策として、どのような手法が有効だと思いますか。（複数選択可）

交通安全教室	235
街頭イベントによる啓発	95
スマートフォンアプリを使った啓発	92
ホームページやチラシ、ポスターによる啓発	68
SNSでの啓発	114
交通安全施設の整備	266
道路交通環境の整備	401
交通取締りの強化	298
その他	70



- ・ 自動車の事故防止に向けた安全対策について、有効な手法として最も多いのが「道路交通環境の整備」で、次に「交通取締りの強化」、「交通安全施設の整備」となっている。
- ・ 意識啓発の有効な手法については、「交通安全教室」が最も多く、次いで「SNSでの啓発」が多い。

調査結果①（自動車などの交通安全について）

■ 自動車などの交通安全について

① 自動車やバイクなど（原付を含む）の運転者の交通ルールの遵守について

「良い」「少し良い」と感じる人は34.8%で前回調査（R1）より11.6ポイント増加しているが、「少し悪い」「悪い」と感じる人は61.9%と高い状況にあり、引き続き自動車の運転者のルール遵守等が図られるよう、交通安全意識の高揚に向け取り組んでいく必要がある。

② 悪いと感じる運転者の年代について

「悪い」と感じる自動車運転者の年代は、「高齢者」、「中壮年」、「若年層」の順だが、それぞれ3割台となっており、大きな差はない。

③ 交通事故を減らすために、どの年代の運転者に対して交通安全対策が必要だと思うか

交通安全対策が必要と思われる自動車運転者の年代は、「高齢者」が48.1%と最も多いことから高齢運転者対策に取り組んでいく必要がある。

④ 自動車の交通事故防止に向けた安全対策として、有効な手法について

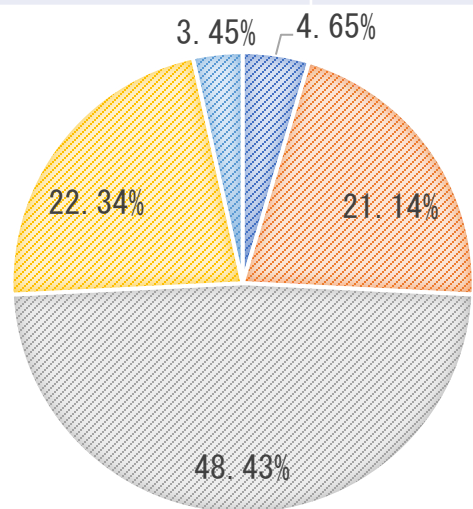
- ・ 有効な手法として最も多いのが「道路交通環境の整備」で、次に「交通取締りの強化」、「交通安全施設の整備」となっている。
- ・ 意識啓発の有効な手法については、「交通安全教室」に次いで「SNSでの啓発」が多いことから、周知啓発の際にはSNSを活用するなど、効果的な情報発信に取り組んでいく必要がある。

調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

① 宇都宮市内の自転車の運転者の交通ルールの遵守について、どのように感じますか。（一つ選択）

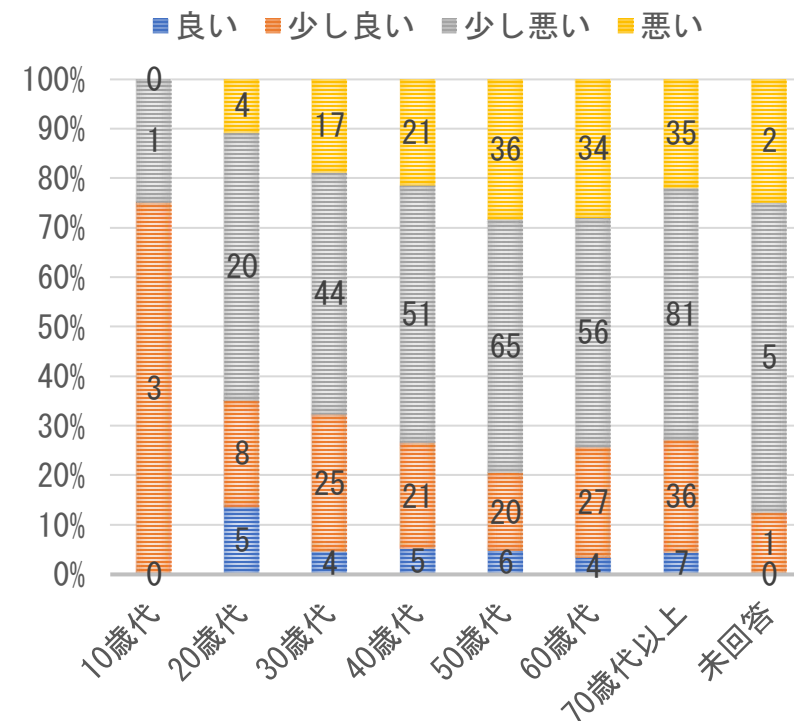
良い	31
少し良い	141
少し悪い	323
悪い	149



■ 良い ■ 少し良い ■ 少し悪い ■ 悪い ■ 未回答

	良い	少し良い	少し悪い	悪い
10歳代	0	3	1	0
20歳代	5	8	20	4
30歳代	4	25	44	17
40歳代	5	21	51	21
50歳代	6	20	65	36
60歳代	4	27	56	34
70歳代以上	7	36	81	35
未回答	0	1	5	2

年齢層別内訳



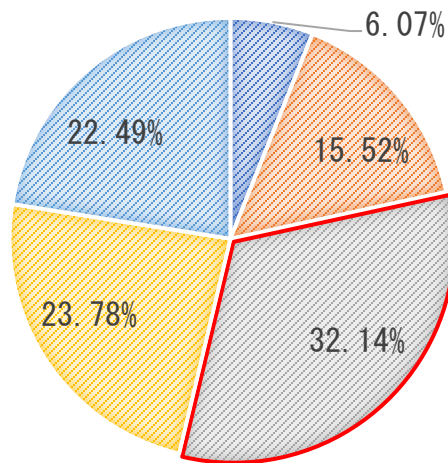
自転車の交通ルールの遵守について「良い」「少し良い」と感じる人は25.8%、「少し悪い」「悪い」と感じる人は70.8%

調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

② 悪いと感じる自転車の運転者は、どの世代の運転者だと思いますか。（複数回答可）

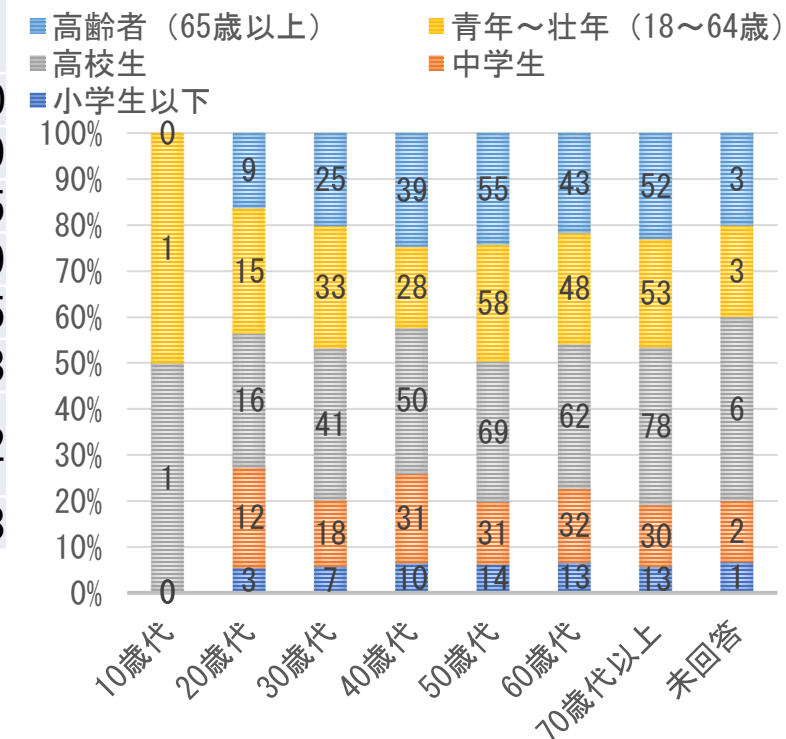
小学生以下	61
中学生	156
高校生	323
青年～壮年 (18～64歳)	239
高齢者 (65歳以上)	226



- 小学生以下
- 中学生
- 高校生
- 青年～壮年 (18～64歳)
- 高齢者 (65歳以上)

	小学生以下	中学生	高校生	青年～壮年 (18～64歳)	高齢者 (65歳以上)
10歳代	0	0	1	1	0
20歳代	3	12	16	15	9
30歳代	7	18	41	33	25
40歳代	10	31	50	28	39
50歳代	14	31	69	58	55
60歳代	13	32	62	48	43
70歳代以上	13	30	78	53	52
未回答	1	2	6	3	3

年齢層別内訳



「悪い」感じる自転車運転者の年代は、高校生が32.1%で最も多く、次いで青年～壮年、高齢者となっている。

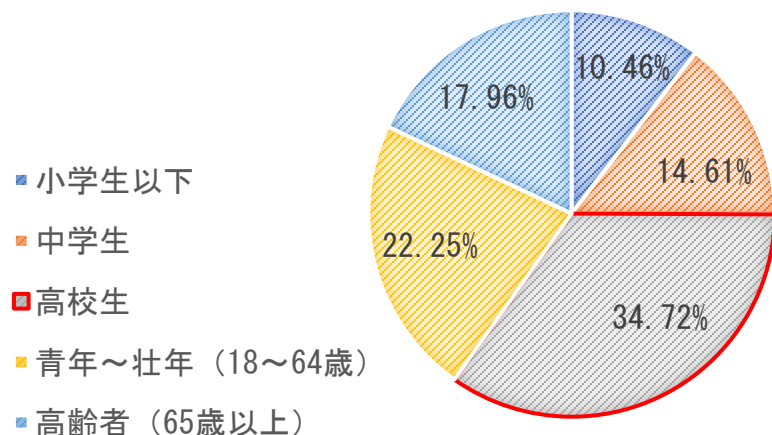
調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

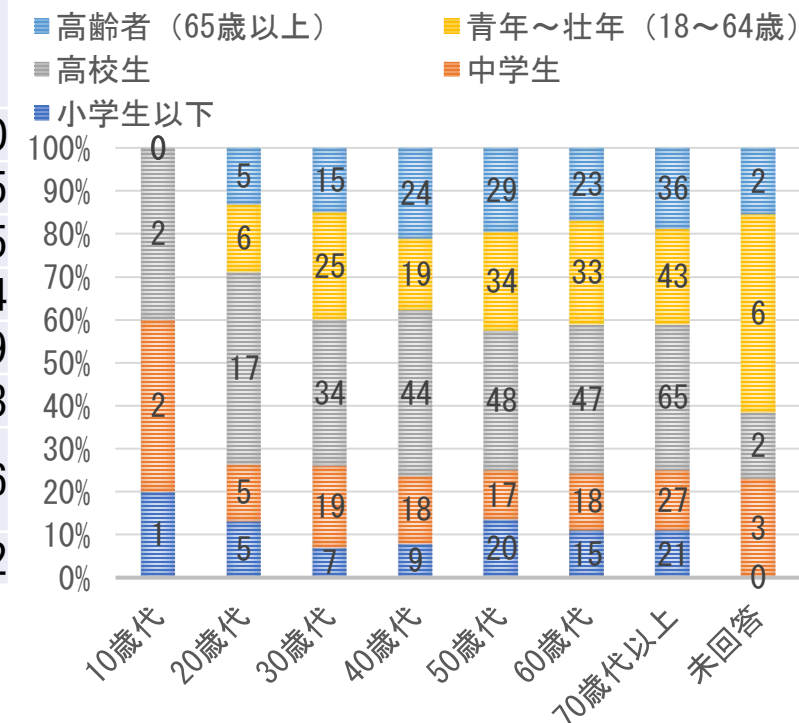
③ 自転車の交通事故を減らすために、どの世代の運転者に対して交通安全対策が必要だと思いますか。（一つ選択）

小学生以下	78
中学生	109
高校生	259
青年～壮年 (18～64歳)	166
高齢者(65歳以上)	134

	小学生 以下	中学生	高校生	青年～ 壮年 (18～ 64歳)	高齢者 (65歳 以上)
10歳代	1	2	2	0	0
20歳代	5	5	17	6	5
30歳代	7	19	34	25	15
40歳代	9	18	44	19	24
50歳代	20	17	48	34	29
60歳代	15	18	47	33	23
70歳代 以上	21	27	65	43	36
未回答	0	3	2	6	2



年齢層別内訳



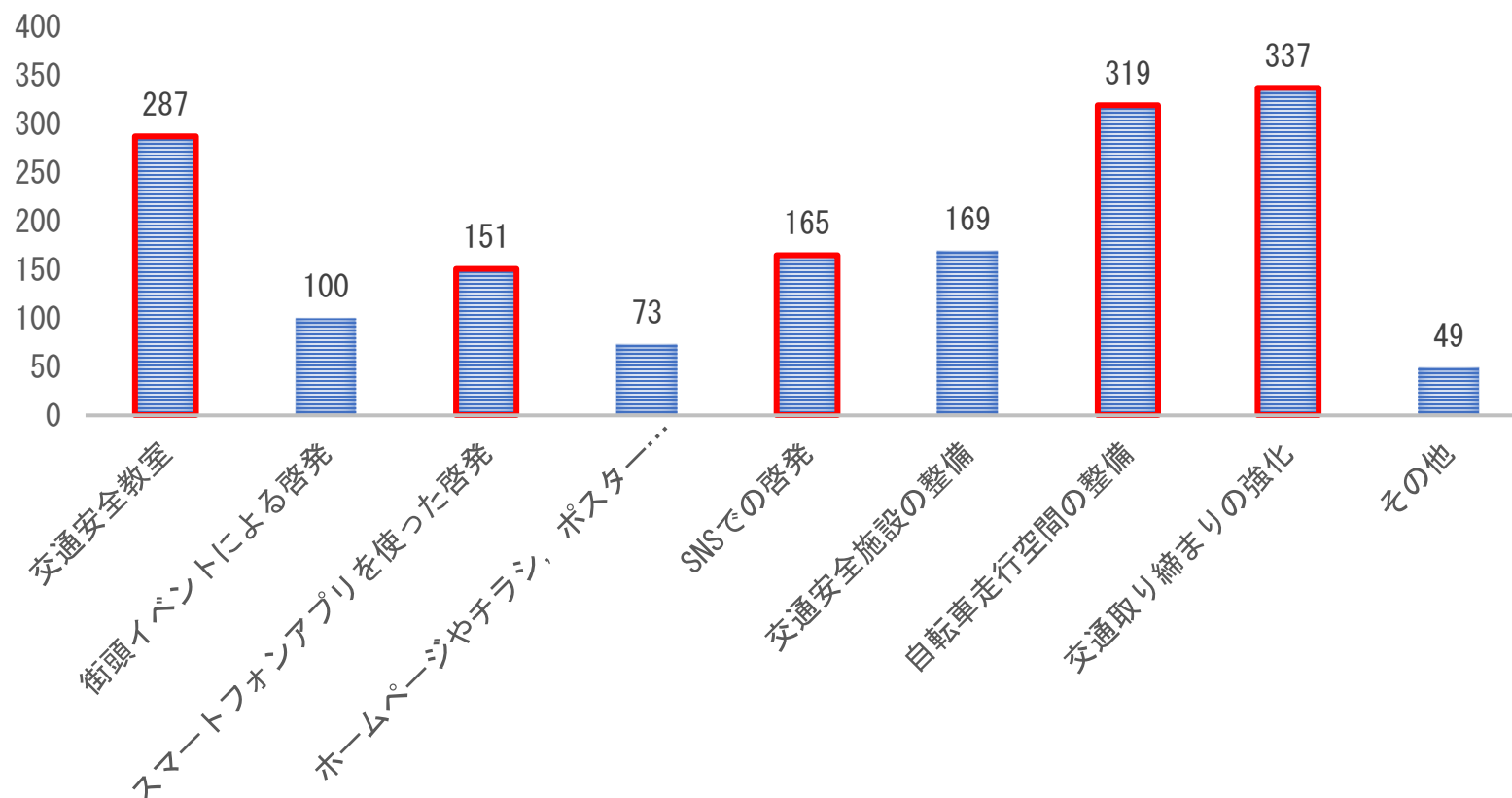
交通安全対策が必要と思われる自転車運転者の年代は、高校生が34.7%と最も多く、次いで青年・壮年、高齢者となっている。

調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

④ 自転車の事故防止に向けた交通安全対策として、どのような手法が有効だと思いますか。（複数回答可）

交通安全教室	287
街頭イベントによる啓発	100
スマートフォンアプリを使った啓発	151
ホームページやチラシ、ポスターによる啓発	73
SNSでの啓発	165
交通安全施設の整備	169
自転車走行空間の整備	319
交通取締りの強化	337
その他	49



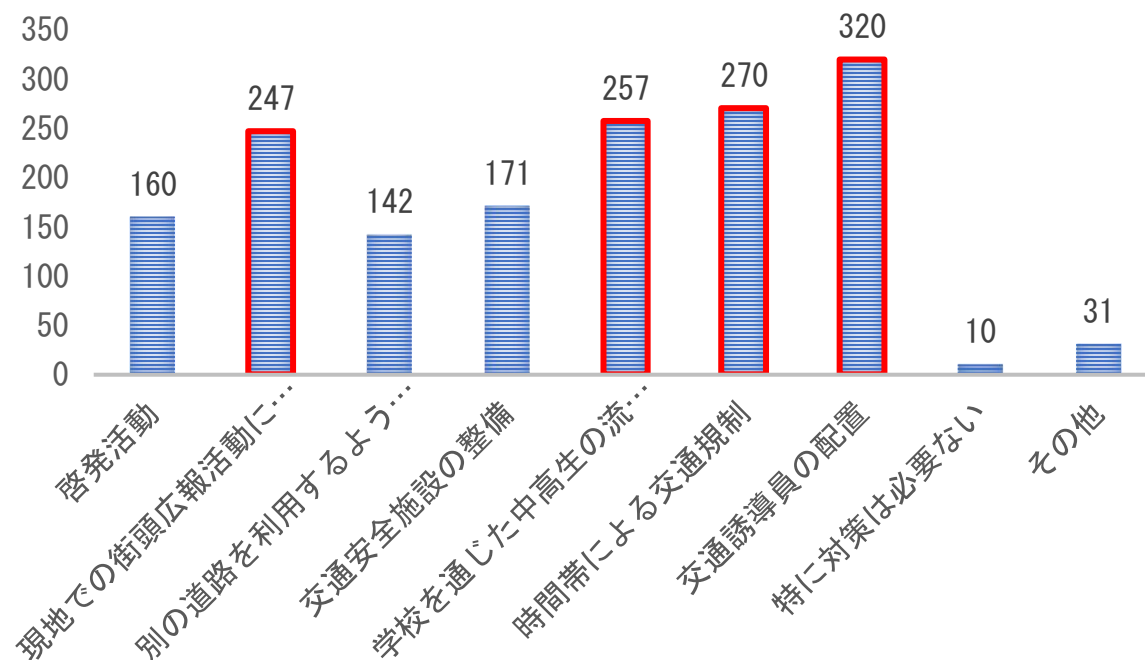
- ・ 自転車の事故防止に向けた交通安全対策について、有効な手法として最も多いのが「交通取締りの強化」で、次いで「自転車走行空間の整備」が多い。
- ・ 意識啓発の有効な手法については、「交通安全教室」が最も多く、次いで「SNSでの啓発」、「スマートフォンアプリを使った啓発」が多い。

調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

- ⑤ 通学時間帯に中高生の自転車利用が多くなるような駅前やオリオン通りなどにおいて、移動しやすく、人中心の居心地の良いウォーカブルな空間を実現するため、自転車を手で押して通行してもらう「押しチャリ」の協力を呼びかけておりますが、今後さらに安心できる空間を目指していくため、具体的にどのような対策が必要だと考えられますか？（複数選択可）

啓発活動	160
現地での街頭広報活動による呼びかけ	247
別の道路を利用するよう促し、分散させる	142
交通安全施設の整備	171
学校を通じた中高生の流入の抑制	257
時間帯による交通規制	270
交通誘導員の配置	320
特に対策は必要ない	10
その他	31



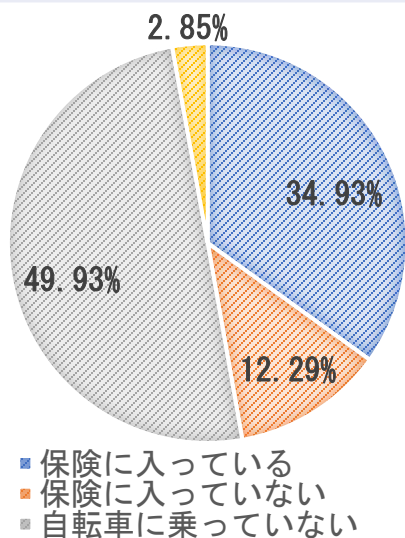
駅前やオリオン通りなどにおける歩行者も自転車運転者も安心して通行できる空間の実現に向けては、必要な対策として「交通誘導員の配置」や「時間帯による交通規制」、学校を通じた周知や現地での呼びかけなどが多い。

調査結果②（自転車の交通安全について）

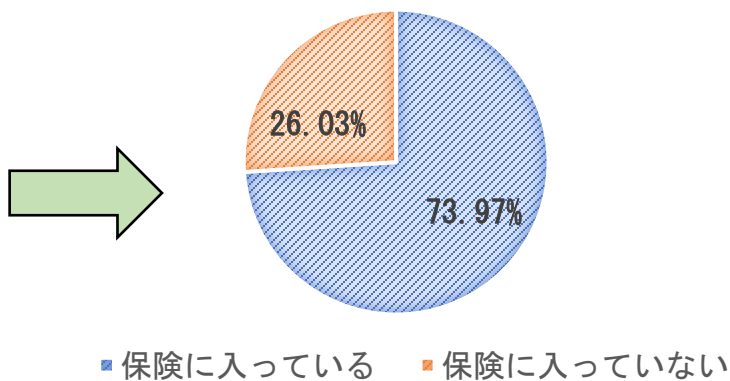
■ 自転車の交通安全について

⑥ あなたは自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手の怪我の治療費などを補償する保険（自転車保険）に入っていますか。（一つ選択）

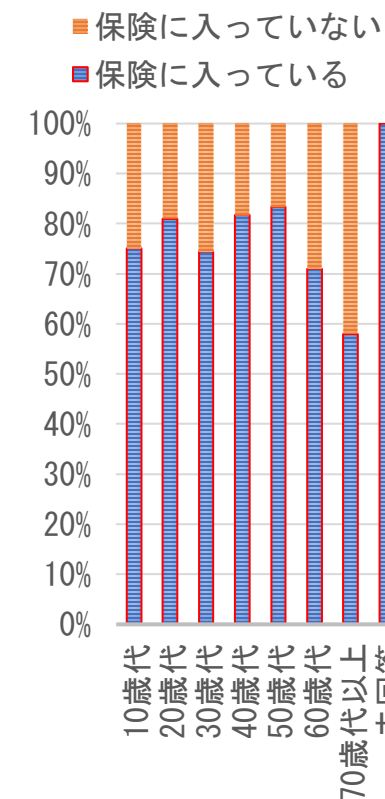
保険に入っている	233
保険に入っていない	82
自転車に乗っていない	333
未回答	19



自転車に乗っている人の
保険加入率



	保険に入っている	保険に入っていない	自転車に乗っていない
10歳代	3	1	0
20歳代	17	4	17
30歳代	32	11	48
40歳代	49	11	40
50歳代	50	10	68
60歳代	39	16	67
70歳代以上	40	29	88
未回答	3	0	5



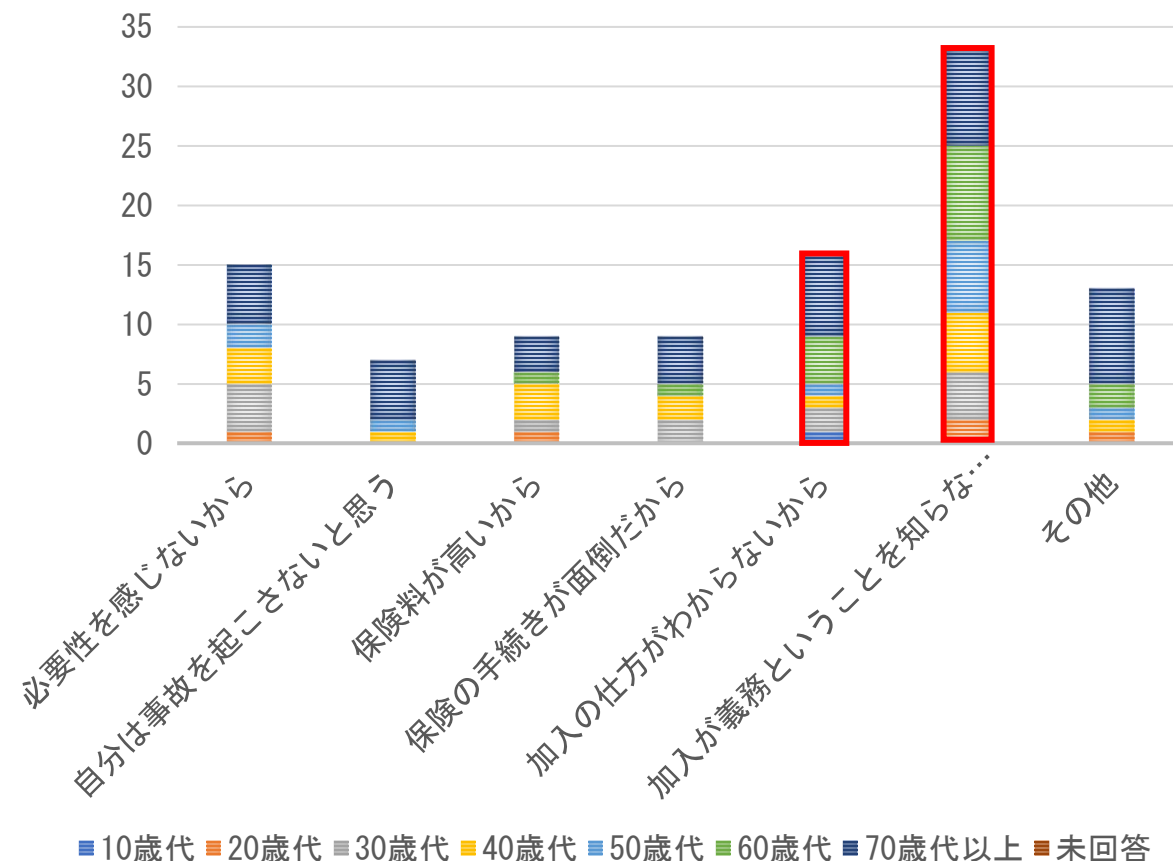
- ・ 自転車に乗る人のうち、74.0%の人は自転車保険に加入しており、前回調査より28.6ポイント増加している。
- ・ 年代が上がるにつれて保険の加入率が下がる。

調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

⑦ 自転車保険に加入していない理由は何ですか。（複数回答可）

	必要性を感じないから	自分は事故を起こさないと思う	保険料が高いから	保険の手続きが面倒だから	加入の仕方がわからないから	加入が義務ということをしらなかったから	その他
10歳代	0	0	0	0	1	0	0
20歳代	1	0	1	0	0	2	1
30歳代	4	0	1	2	2	4	0
40歳代	3	1	3	2	1	5	1
50歳代	2	1	0	0	1	6	1
60歳代	0	0	1	1	4	8	2
70歳代以上	5	5	3	4	7	8	8
未回答	0	0	0	0	0	0	0
合計	15	7	9	9	16	33	13



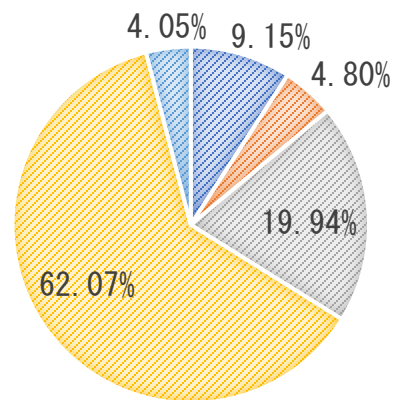
自転車保険に加入していない理由について、「加入が義務ということをしなかったから」という人が最も多く、次いで「加入の仕方がわからない」や「必要性を感じない」が多い。

調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

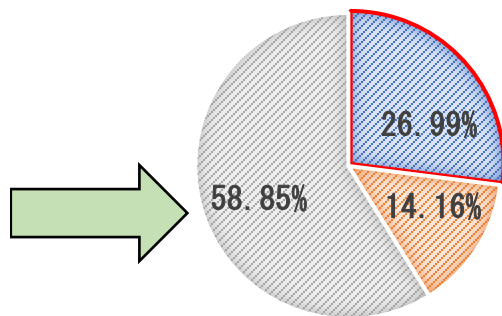
⑧ あなたは自転車利用時に自転車用のヘルメットを着用していますか。（一つ選択）

ヘルメットを着用している	61
ヘルメットを持っているが、着用していない	32
ヘルメットを持っていない	133
自転車に乗らない	414
未回答	27



- ヘルメットを着用している
- ヘルメットを持っているが、着用していない
- ヘルメットを持っていない
- 自転車に乗らない
- 未回答

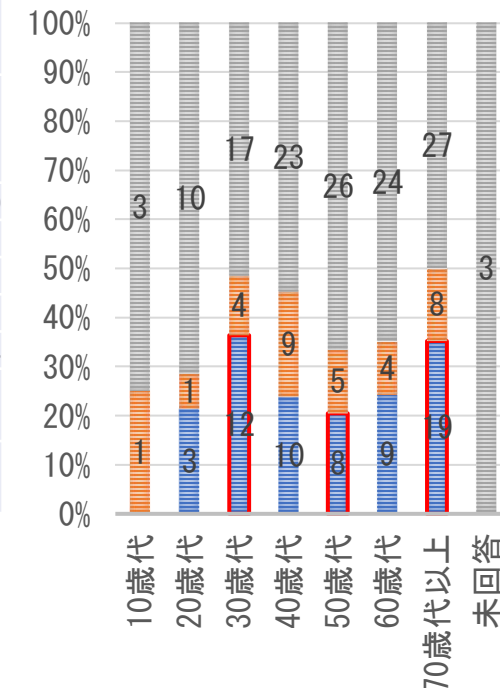
自転車に乗っている人の着用率



- ヘルメットを着用している
- ヘルメットを持っているが、着用していない
- ヘルメットを持っていない

	ヘルメットを着用している	ヘルメットを持っているが、着用していない	ヘルメットを持っていない
10歳代	0	1	3
20歳代	3	1	10
30歳代	12	4	17
40歳代	10	9	23
50歳代	8	5	26
60歳代	9	4	24
70歳代以上	19	8	27
未回答	0	0	3

- ヘルメットを持っていない
- ヘルメットを持っているが、着用していない
- ヘルメットを着用している



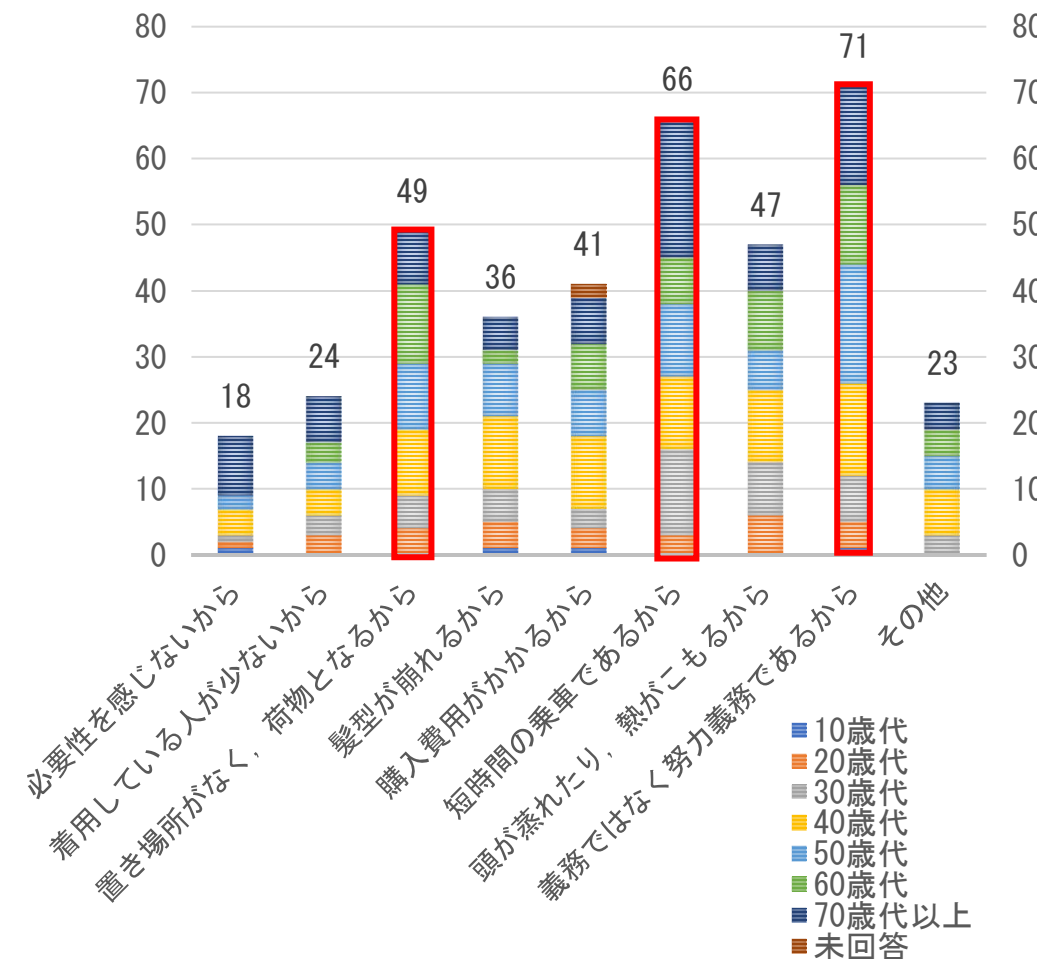
- ・ 自転車に乗っている人のうちヘルメットを着用しているのは27.0%で、前回調査より21.8ポイント増加している。また、ヘルメットの保有率は41.2%で、前回調査よりも32.3ポイント増加している。
- ・ 着用率の年齢層別では30歳代と60歳代が高く、50歳代の着用率が低い。

調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

⑨ ヘルメットを着用しない理由は何ですか。（複数回答可）

	必要性を感じないから	ヘルメットを着用している人が少ないから	ヘルメットの置き場所がなく、荷物となるから	ヘルメットの着用で髪型が崩れるから	ヘルメットの購入費用がかかるから	短時間の乗車であるから	ヘルメットの着用で頭が蒸れたり、熱がこもるから	法令上、ヘルメットの着用は義務ではなく努力義務であるから	その他
10歳代	1	0	0	1	1	0	0	1	0
20歳代	1	3	4	4	3	3	6	4	0
30歳代	1	3	5	5	3	13	8	7	3
40歳代	4	4	10	11	11	11	11	14	7
50歳代	2	4	10	8	7	11	6	18	5
60歳代	0	3	12	2	7	7	9	12	4
70歳代以上	9	7	8	5	7	21	7	15	4
未回答	0	0	0	0	2	0	0	0	0



- ヘルメットを着用しない理由としては、「法令上、ヘルメットの着用は義務ではなく努力義務であるから」が最も多く、次いで「短時間の乗車であるから」、「置き場所がなく荷物となるから」が多い。
- 70歳以上の方は「短時間の乗車であるから」が最も多い。

調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

① 自転車の運転者の交通ルールの遵守について

自転車の交通ルールの遵守について「良い」「少し良い」と感じる人は25.8%、「少し悪い」「悪い」と感じる人は70.8% となっている。

② 「悪い」感じる自転車運転者の年代について

「悪い」感じる自転車運転者の年代は、高校生が32.1%で最も多く、次いで青年～壮年、高齢者となっている。

③ 交通事故を減らすために、どの年代の運転者に対して交通安全対策が必要だと思うか

交通安全対策が必要と思われる自転車運転者の年代は、高校生が34.7%と最も多く、次いで青年・壮年、高齢者となっている。

自動車や歩行者と比較しても悪い状況にあり、特に高校生に対し自転車利用者のルール遵守等が図られるよう取り組んでいく必要がある。

④ 事故防止に向けた交通安全対策として、どのような手法が有効だと思うか

- ・ 自転車の事故防止に向けた交通安全対策について、有効な手法として最も多いのが「交通取締りの強化」で、次いで「自転車走行空間の整備」となっている。
- ・ 意識啓発の有効な手法については、「交通安全教室」が最も多く、次いで「SNSでの啓発」、「スマートフォンアプリを使った啓発」が多いことから、交通安全教室のほか、高校生に対しスマートフォンを活用した効果的な啓発の手法を検討する必要がある。

調査結果②（自転車の交通安全について）

■ 自転車の交通安全について

⑤ 駅前等における歩行者や自転車運転者が安心して通行できる空間の実現に向けて必要な対策について「交通誘導員の配置」や「時間帯による交通規制」、学校を通じた周知や現地での呼びかけなどが多い。

⑥⑦ 自転車保険の加入の状況及び保険に加入していない理由について

- ・ 自転車に乗る人のうち、74.0%の人は自転車保険に加入しており、前回調査より28.6ポイント増加している。
- ・ 「加入が義務ということを知らなかったから」という人が最も多く、次いで「加入の仕方がわからない」や「必要性を感じない」が多い。

自転車が増加した際の被害者の救済を図るため、県内においては自転車利用者は義務であることや、保険加入の必要性を周知し、保険の加入促進に取り組んでいく必要がある

⑧⑨ 自転車ヘルメットの着用の状況及び着用しない理由について

- ・ 自転車に乗っている人のうち、着用しているのは27.0%で、前回調査より21.8ポイント増加している。
- ・ ヘルメットの保有率は41.2%で、前回調査よりも32.3ポイント増加している。
- ・ 自転車・ヘルメットを着用しない理由としては、「法令上、ヘルメットの着用は義務ではなく努力義務であるから」が最も多く、次いで「短時間の乗車であるから」、「置き場所がなく荷物となるから」が多い。

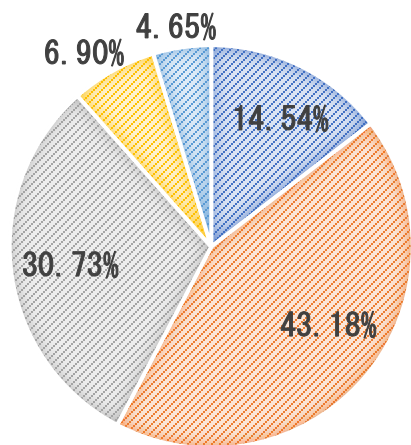
自転車ヘルメットの着用率及び保有率は前回調査と比較し増加しているが、73.0%が着用していないことから、更なる着用率の向上に向けヘルメット着用の必要性を周知するなど、取組を充実させる必要がある。

調査結果③（歩行者の交通安全について）

■ 歩行者の交通安全について

① 宇都宮市内の歩行者の交通ルールの遵守について、どのように感じますか。（一つ選択）

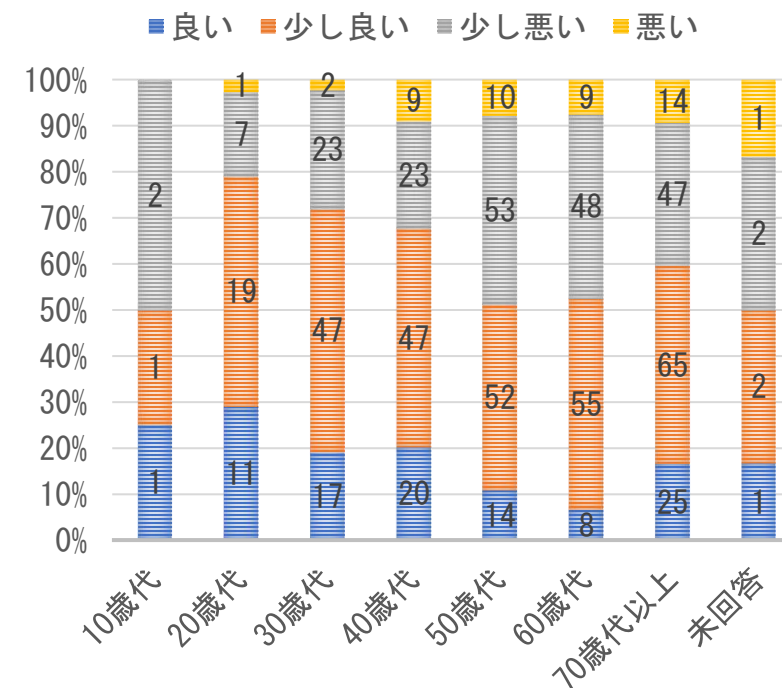
良い	97
少し良い	288
少し悪い	205
悪い	46
未回答	31



■ 良い ■ 少し良い ■ 少し悪い ■ 悪い ■ 未回答

	良い	少し良い	少し悪い	悪い
10歳代	1	1	2	0
20歳代	11	19	7	1
30歳代	17	47	23	2
40歳代	20	47	23	9
50歳代	14	52	53	10
60歳代	8	55	48	9
70歳代以上	25	65	47	14
未回答	1	2	2	1

年齢層別内訳



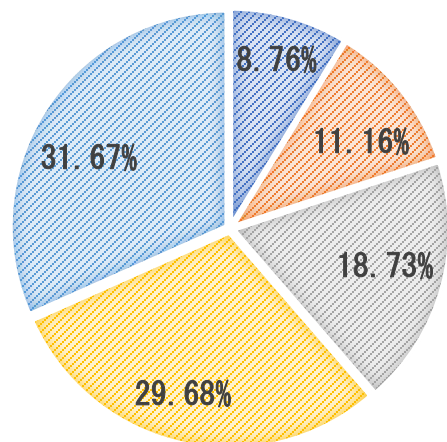
歩行者の交通ルールの遵守について「良い」，「少し良い」と感じる人は57.7%で，「悪い」，「少し悪い」の37.6%を20ポイント上回っている。

調査結果③（歩行者の交通安全について）

■ 歩行者の交通安全について

② 悪いと感じる歩行者は、どの世代の方だと思いますか。（複数選択可）

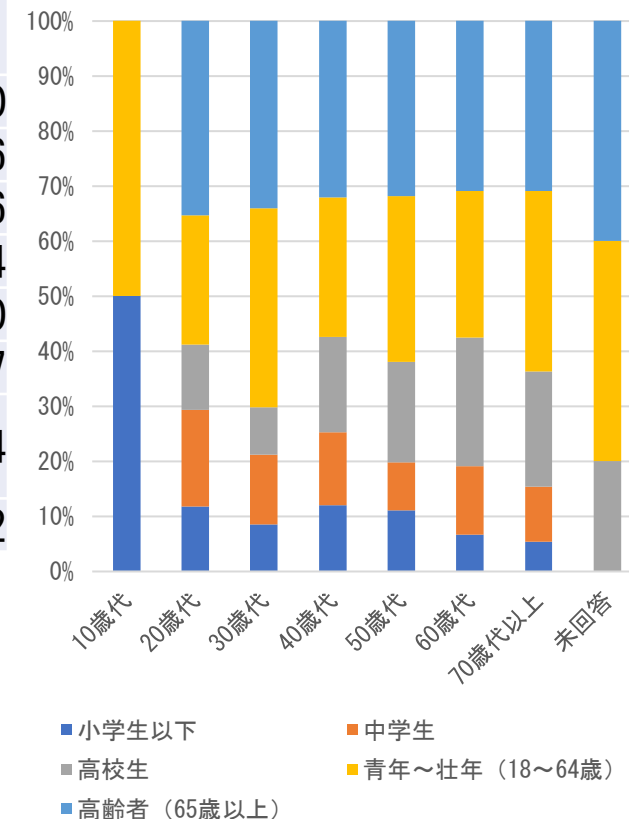
小学生以下	44
中学生	56
高校生	94
青年～壮年（18～64歳）	149
高齢者（65歳以上）	159



- 小学生以下
- 中学生
- 高校生
- 青年～壮年（18～64歳）
- 高齢者（65歳以上）

	小学生以下	中学生	高校生	青年～壮年（18～64歳）	高齢者（65歳以上）
10歳代	1	0	0	1	0
20歳代	2	3	2	4	6
30歳代	4	6	4	17	16
40歳代	9	10	13	19	24
50歳代	14	11	23	38	40
60歳代	8	15	28	32	37
70歳代以上	6	11	23	36	34
未回答	0	0	1	2	2

年齢層別内訳



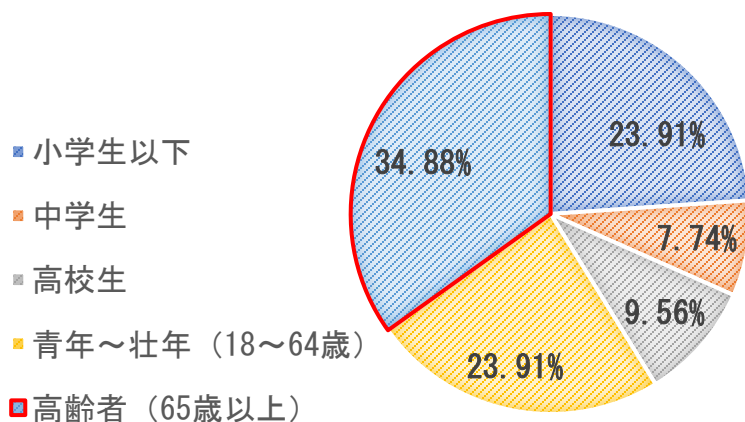
歩行者の交通ルールの遵守について「悪い」と思われている年代は、高齢者が31.7%で最も多く、次いで青年～壮年が多い。

調査結果

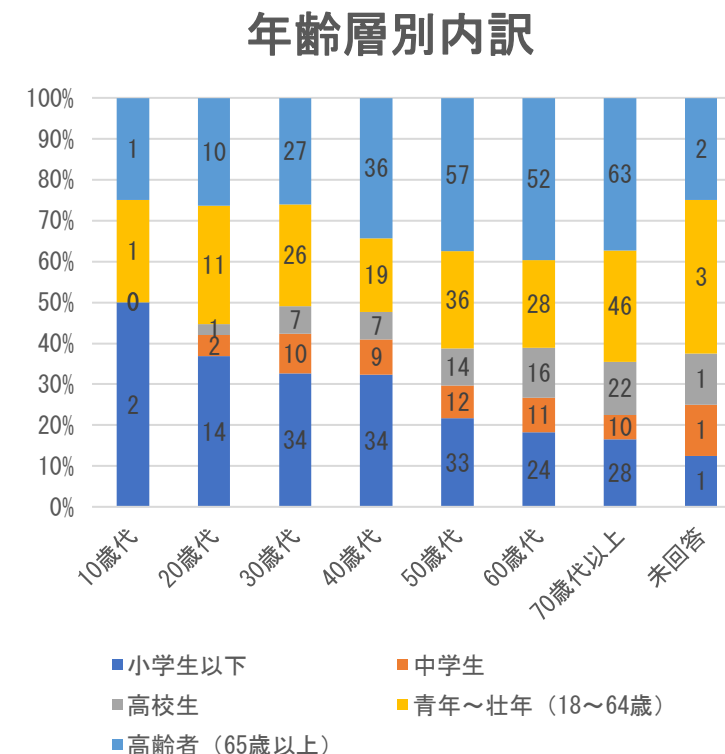
■ 歩行者の交通安全について

③ 歩行者の交通事故を減らすために、どの世代に対して交通安全対策が必要だと思いますか。（一つ選択）

小学生以下	170
中学生	55
高校生	68
青年～壮年（18～64歳）	170
高齢者（65歳以上）	248



	小学生以下	中学生	高校生	青年～壮年（18～64歳）	高齢者（65歳以上）
10歳代	2	0	0	1	1
20歳代	14	2	1	11	10
30歳代	34	10	7	26	27
40歳代	34	9	7	19	36
50歳代	33	12	14	36	57
60歳代	24	11	16	28	52
70歳代以上	28	10	22	46	63
未回答	1	1	1	3	2



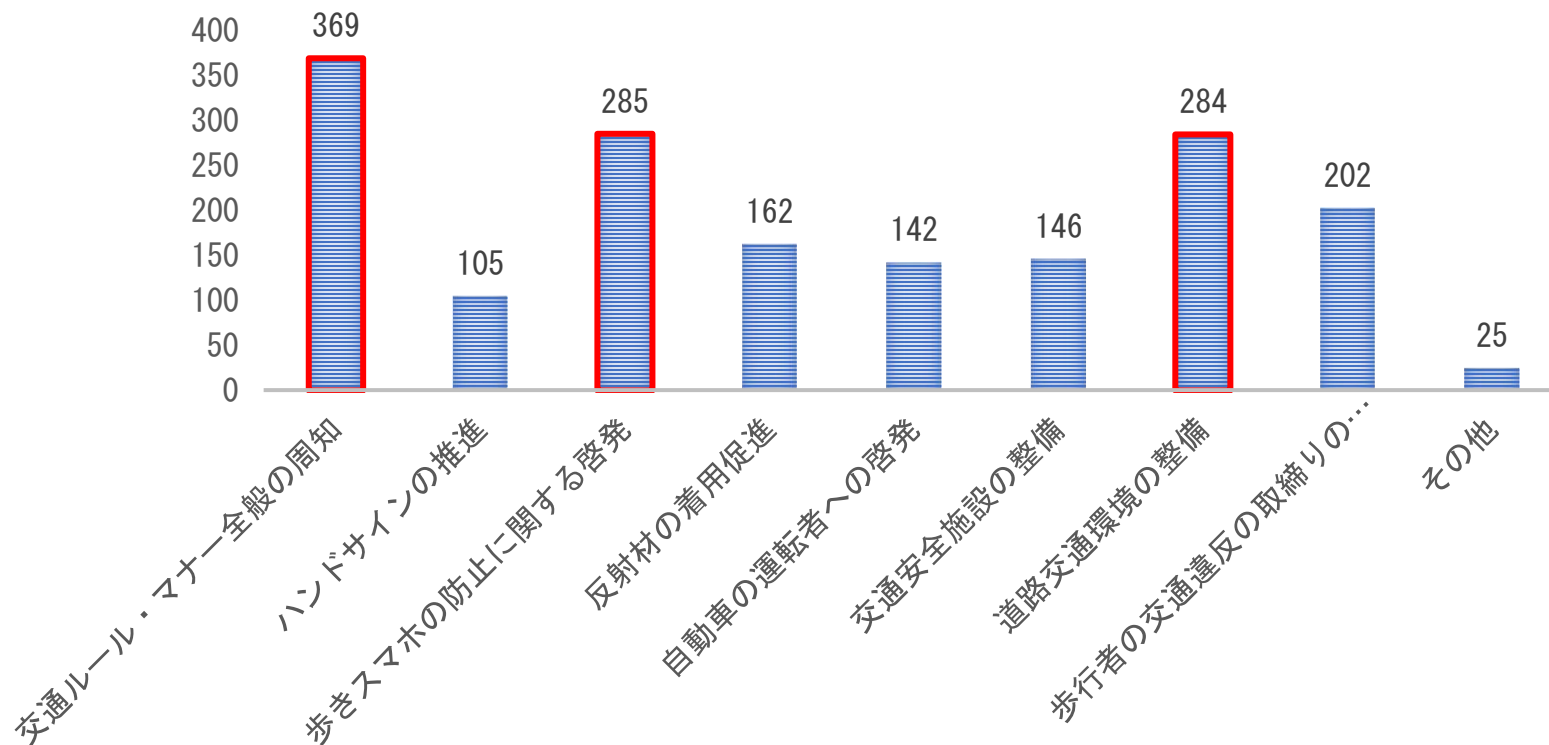
歩行者の交通事故を減らすための交通安全対策が必要と思われる歩行者の年代は、「高齢者」が34.9%と最も多く、次いで「青年～壮年」，「小学生以下」となっている。

調査結果③（歩行者の交通安全について）

■ 歩行者の交通安全について

④ 問20でお答えいただいた世代に向けての交通安全対策として、どのような手法が有効だと思いますか。
（複数選択可）

交通ルール・マナー全般の周知	369
ハンドサインの推進	105
歩きスマホの防止に関する啓発	285
反射材の着用促進	162
自動車の運転者への啓発	142
交通安全施設の整備	146
道路交通環境の整備	284
歩行者の交通違反の取締りの強化	202
その他	25



歩行者の交通事故防止に向けた安全対策について、有効な手法として最も多いのが「交通ルール・マナー全般の周知」で、次に「歩きスマホ防止に関する啓発」、「道路交通環境の整備」となっている。

調査結果③（歩行者の交通安全について）

■ 歩行者の交通安全について

① 歩行者の交通ルールの遵守について

歩行者の交通ルールの遵守について「良い」、「少し良い」と感じる人は57.7%で、「悪い」、「少し悪い」の37.6%を20ポイント上回っている。

② 「悪い」感じる歩行者の年代について

歩行者の交通ルールの遵守について「悪い」と思われている年代は、高齢者が31.7%で最も多く、次いで青年～壮年が多い。

③ 交通事故を減らすために、どの年代の歩行者に対して交通安全対策が必要だと思うか

歩行者の交通事故を減らすための交通安全対策が必要と思われている歩行者の年代は、「高齢者」が34.9%と最も多く、次いで「青年～壮年」となっていることから、特に高齢者や成人に対する対策に取り組んでいく必要がある。

④ 事故防止に向けた交通安全対策として、どのような手法が有効だと思うか

歩行者の交通事故防止に向けた安全対策について、有効な手法として最も多いのが「交通ルール・マナー全般の周知」で、次に「歩きスマホ防止に関する啓発」となっている。

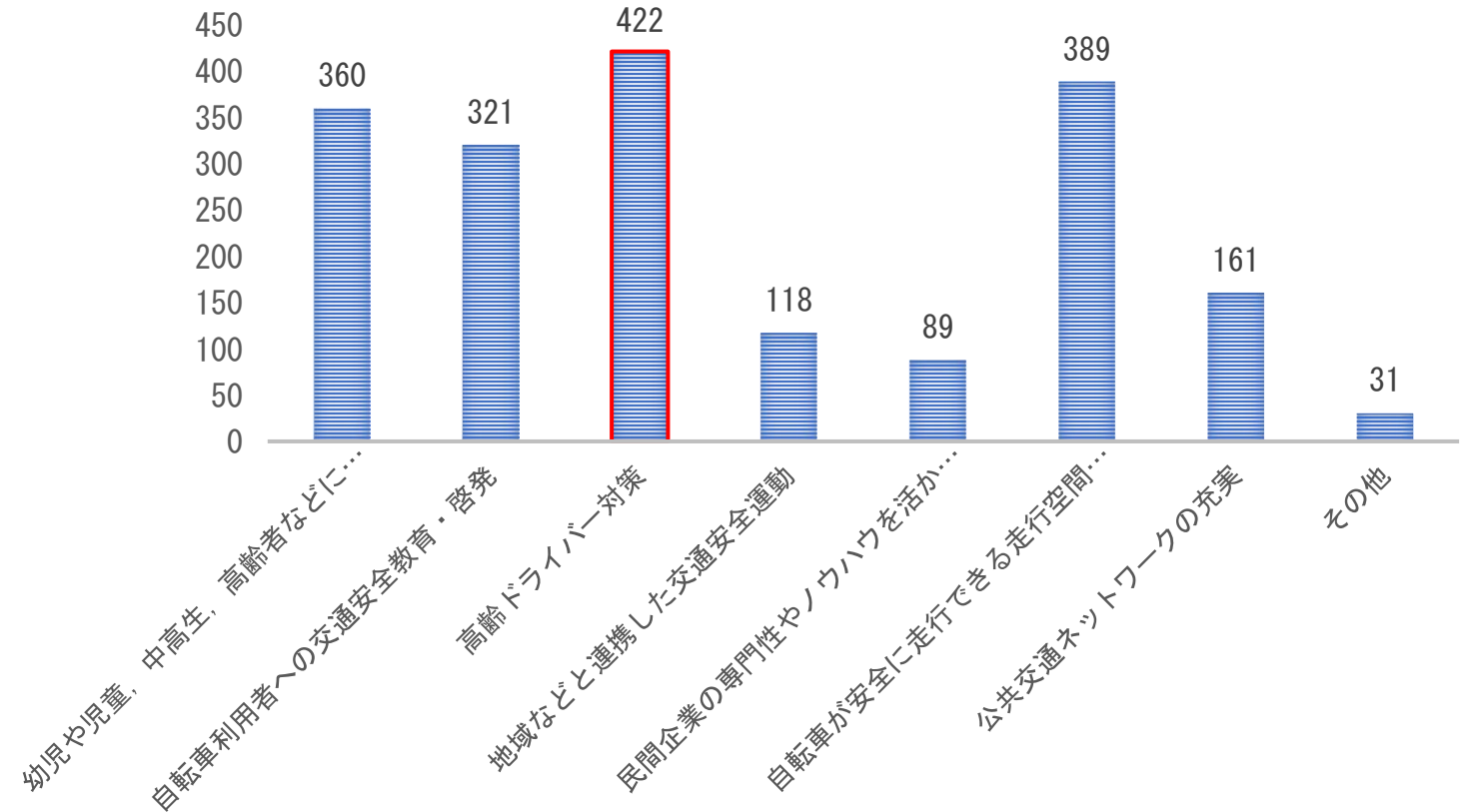
⇒ 歩行者の交通事故を減少させるためには、交通ルール・マナー全般の周知や歩きスマホ防止に関する啓発などの歩行者の安全な交通行動を促す必要がある。

調査結果④（交通安全全般に関する取組について）

■ 交通安全全般に関する取組について

① 交通事故の発生件数を減少させるために、市に力を入れてほしい取組は何ですか？（複数回答可）

幼児や児童，中高生，高齢者などに対する交通安全教育・啓発	360
自転車利用者への交通安全教育・啓発	321
高齢ドライバー対策	422
地域などと連携した交通安全運動	118
民間企業の専門性やノウハウを活かした交通安全活動への連携・支援	89
自転車が安全に走行できる走行空間の整備	389
公共交通ネットワークの充実	161
その他	31



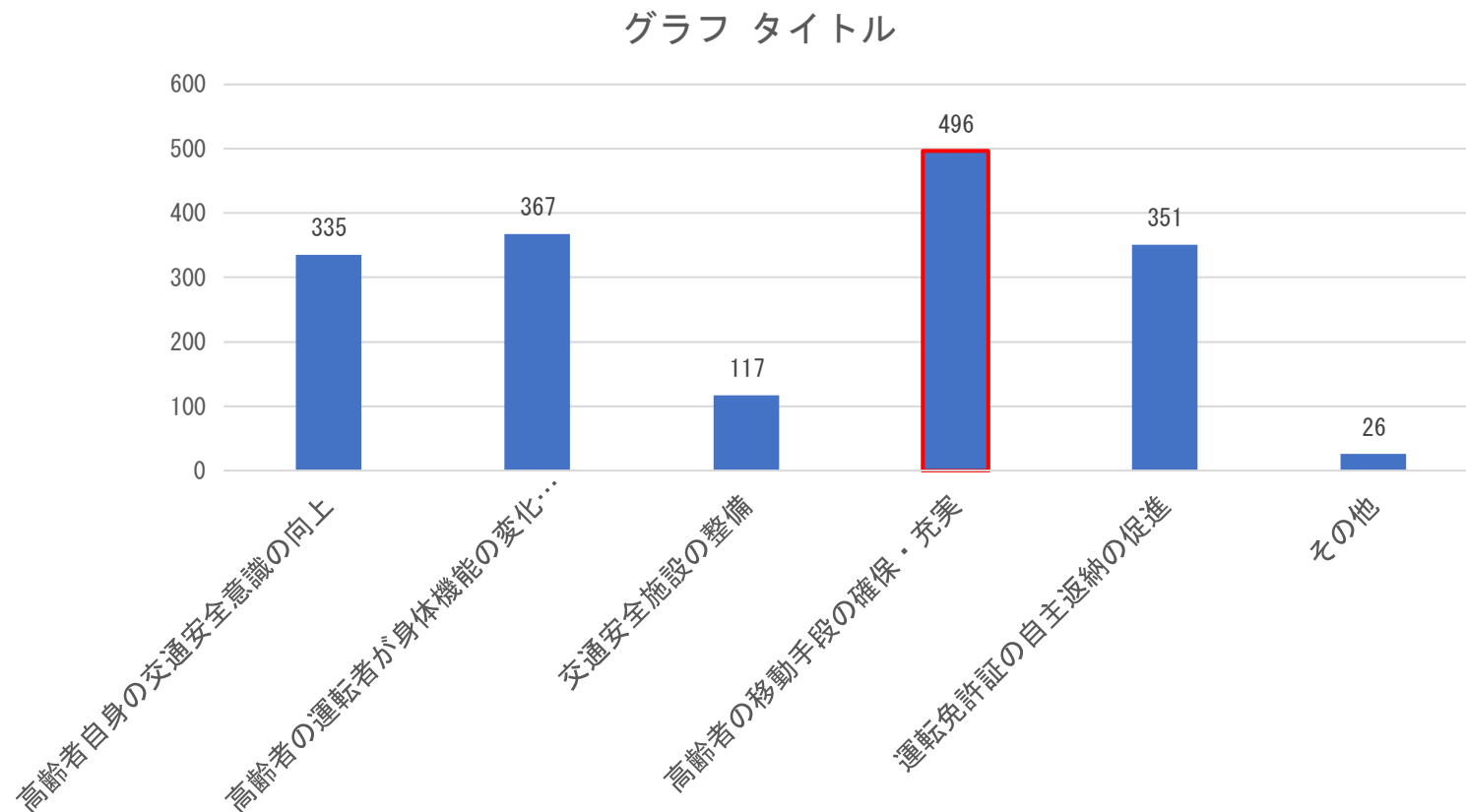
・交通事故発生件数を減少させるために市に力を入れてほしい取組では、高齢ドライバー対策が最も多く、次いで自転車の安全に走行できる走行空間の整備、各世代や自転車利用者への交通安全教育・啓発の順になっている。

調査結果④（交通安全全般に関する取組について）

■ 交通安全全般に関する取組について

② 高齢者の事故を減少させるため、どのような対策が必要だと思いますか。（複数回答可）

高齢者自身の交通安全意識の向上	335
高齢者の運転者が身体機能の変化を認識する機会の提供	367
交通安全施設の整備	117
高齢者の移動手段の確保・充実	496
運転免許証の自主返納の促進	351
その他	26



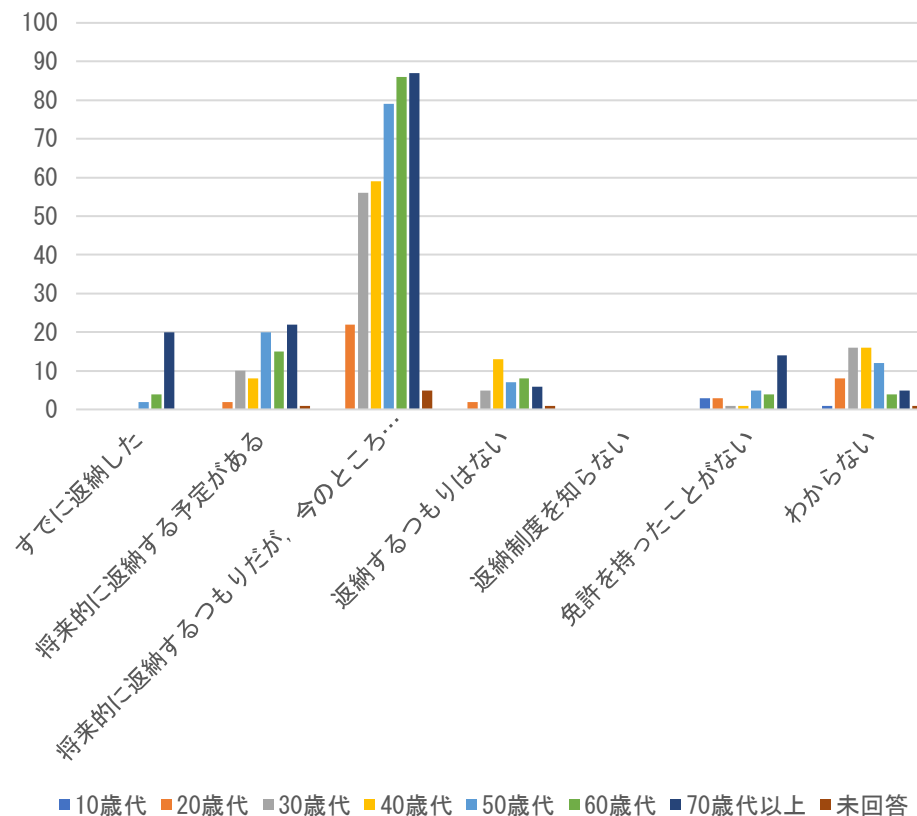
・ 高齢者の事故の減少に向けた対策について、「高齢者の移動手段の確保・充実」が最も多く、次いで「高齢運転者が身体機能の変化を認識する機会の提供」、「運転免許証の自主返納の促進」となっている。

調査結果④（交通安全全般に関する取組について）

■ 交通安全全般に関する取組について

③ あなた自身の運転免許証に対する自主返納について、どのように考えていますか。（一つ選択）

	すでに返納した	将来的に返納する予定がある	将来的に返納するつもりだが、今のところ予定は立てない	返納するつもりはない	返納制度を知らない	免許を持ったことがない	わからない
10歳代	0	0	0	0	0	3	1
20歳代	0	2	22	2	0	3	8
30歳代	0	10	56	5	0	1	16
40歳代	0	8	59	13	0	1	16
50歳代	2	20	79	7	0	5	12
60歳代	4	15	86	8	0	4	4
70歳代以上	20	22	87	6	0	14	5
未回答	0	1	5	1	0	0	1



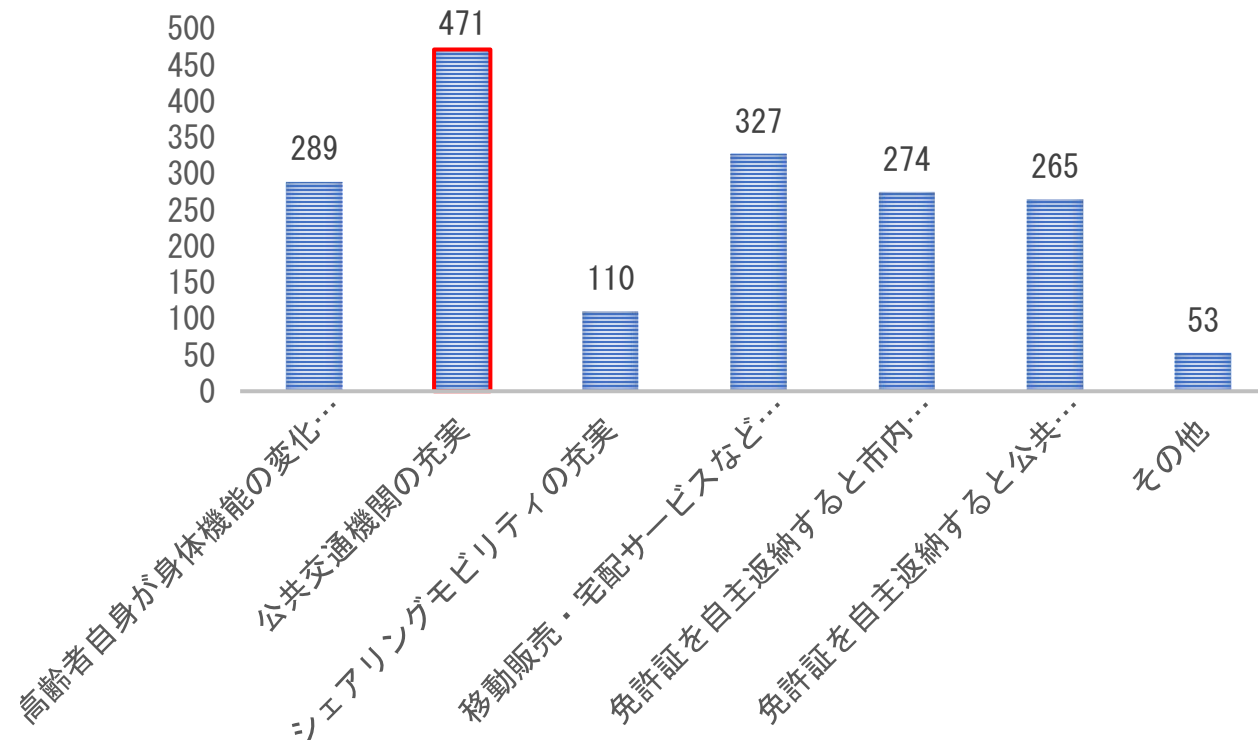
運転免許証の自主返納について「将来的に返納するつもりだが、今のところ予定は立ててない」人が約62.1%と最も多く、70代以上においても約56.5%の人が「今は予定がない」と考えている。

調査結果④（交通安全全般に関する取組について）

■ 交通安全全般に関する取組について

④ どうすれば免許返納しやすくなると思いますか。（複数選択可）

高齢者自身が身体機能の変化を認識する機会の充実	289
公共交通機関の充実	471
シェアリングモビリティの充実	110
移動販売・宅配サービスなどの買い物支援の充実	327
免許証を自主返納すると市内での買い物で割引を受けられるなどのサービスの充実	274
免許証を自主返納すると公共交通利用の際に使えるtotraポイントの付与	265
その他	53



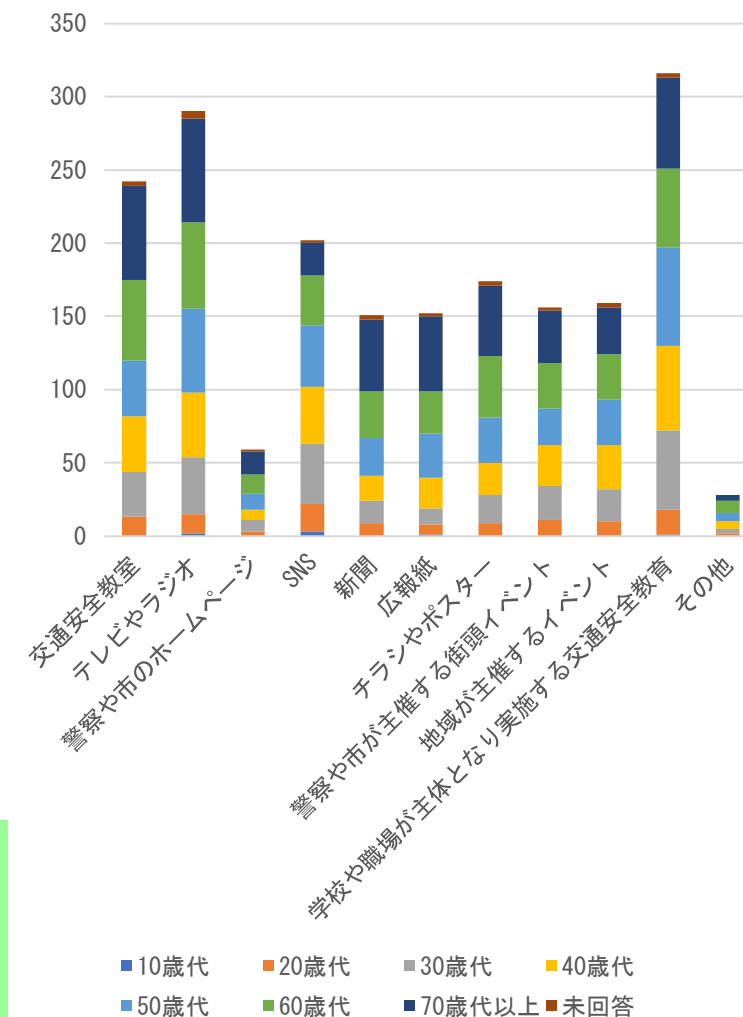
- ・免許返納しやすくなる取組について、「公共交通機関の充実」が最も多く、次いで移動販売・宅配サービスのなどの買い物支援や身体機能の変化を認識する機会の充実となっている。
- ・また、「免許証を自主返納すると市内での買い物で割引を受けられるなどのサービスの充実」や「免許証を自主返納すると公共交通利用の際に使えるtotraポイントの付与」などインセンティブの付与についても多くなっている。

調査結果④（交通安全全般に関する取組について）

交通安全全般に関する取組について

⑤ 交通安全に関する情報（交通ルールやマナー）をどのような方法や機会で見ることが有効だと思いますか。（複数選択可）

	交通安全教室	テレビやラジオ	警察や市のホームページ	SNS	新聞	広報紙	チラシやポスター	警察や市が主催する街頭イベント	地域が主催するイベント	学校や職場が主体となり実施する交通安全教育	その他
10歳代	0	2	0	3	0	1	0	0	0	1	0
20歳代	13	13	3	19	9	7	9	11	10	17	2
30歳代	31	39	8	41	15	11	19	23	22	54	3
40歳代	38	44	7	39	17	21	22	28	30	58	5
50歳代	38	57	11	42	26	30	31	25	31	67	6
60歳代	55	59	13	34	32	29	42	31	31	54	8
70歳代以上	64	71	16	22	49	51	48	36	32	62	4
未回答	3	5	1	2	3	2	3	2	3	3	0
合計	242	290	59	202	151	152	174	156	159	316	28



交通安全に関する情報発信における有効な方法や機会について、「学校や職場における教育」が最も多く、次いで「テレビやラジオ」、「交通安全教室」が多い。

調査結果④（交通安全全般に関する取組について）

■ 交通安全全般に関する取組について

- ① 交通事故の発生件数を減少させるために、市に力を入れてほしい取組は交通事故発生件数を減少させるために市に力を入れてほしい取組では、「高齢ドライバー対策」が最も多く、次いで「自転車の安全に走行できる走行空間の整備」となっている。
- ② 高齢者の事故を減少させるため、どのような対策が必要だと思うか
高齢者の事故の減少に向けた対策について、「高齢者の移動手段の確保・充実」が最も多く、次いで「高齢運転者が身体機能の変化を認識する機会の提供」、「運転免許証の自主返納の促進」となっている。
- ③ 自身の運転免許証に対する自主返納について。
運転免許証の自主返納について「将来的に返納するつもりだが、今のところ予定は立ててない」人が約62.1%と最も多く、70代以上においても約56.5%の人が「今は予定がない」と考えている。
- ④ どうすれば免許返納しやすくなると思うか
 - ・ 免許返納しやすくなる取組について、「公共交通機関の充実」が最も多く、次いで「移動販売・宅配サービスのなどの買い物支援」や身体機能の変化を認識する機会の充実となっている。
 - ・ また、「免許証を自主返納すると市内での買い物で割引を受けられるなどのサービスの充実」や「免許証を自主返納すると公共交通利用の際に使えるtotraポイントの付与」などインセンティブの付与についても多くなっている。

→ 高齢ドライバー対策としては、公共交通機関の充実や移動販売・宅配サービスなど、高齢者が自動車に過度に依存しない環境づくりを推進するほか、高齢者自身が身体機能の変化を認識するきっかけづくりに取り組むなど、ハード・ソフト両面で行っていく必要がある。また、運転免許証の自主返納を促進するためには、インセンティブの付与など、更なるきっかけづくりを検討していく必要がある。
- ⑤ 交通安全に関する情報（交通ルールやマナー）をどのような方法や機会で見ることが有効だと思うか
交通安全に関する情報発信における有効な方法や機会について、「学校や職場における教育」が最も多く、次いで「テレビやラジオ」、「交通安全教室」が多い。